



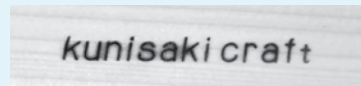
kunisaki craft を世界に伝えたい

北九州市出身の恒成さんは若い頃、世界中を旅行しているうちに木製家具の魅力にひかれ、テーブルやタンスなどの大型家具をはじめ、まな板やしゃもじ、スプーンなどの木工品を制作する工房「くにさき六郷舎」を国見町野田に開きました。「国東には古くから受け継がれている伝統工芸とよばれるものがありませんでした。ここなら新しいことを始められると思いました」と定住を決めたそうです。

国東から世界へ



▲世界農業遺産認定を記念して制作した七島イを使ったスツール



▲kunisaki craft の焼印



▲くにさき六郷舎の展示販売コーナー（シンガポールにて）

木材の質感を最大限に活かした温かみのある製品は、高級感が漂います。「安い物ほどの店でも買えますが、50年も100年も使い続けられる家具、使うほどに愛着を感じる木工品の魅力を伝えるのが、私の役割です」と職人魂を燃やします。大手百貨店での展示会では、本物志向を求める客の注目を浴び、大口の注文も飛び込んでくるそうです。

作品に「Kunisaki Craft」（クニサキクラフト）の焼印を押して販売を始めた恒成さんは、昨年9月、イギリスのロンドンであった展覧会「ハンドメイド JAPAN」で初めて「クニサキ」の名を紹介。11月中旬にはシンガポールで行われた「日本ハンドイクラフトフェア」にも出展しました。「現地の人には日本の歴史や文化に興味を持つと同時に日本人を信頼しています。木工品にも高い関心を示してくれました。国東市独自の物産展もできる気がします」と手ごたえを感じたと話します。

くにさき六郷舎
代表 恒成 哲三郎さん

国東 おだやか博 2014 ハイライト



美味しいみかんを取獲後、お月見を堪能



A P U 留学生も日本のお寺の文化を初体験



銘酒を育む酒造の周辺やため池の散策



七島イでしめ飾りを作成。正月準備は万全です

国東の暮らしに触れた旅。



自然豊かな里山を愛犬と一緒にウォーキング



森のアトリエで作るシルバーアクセサリー

9月から12月にかけて市内各所で開催された「国東おだやか博2014」。国東の自然・アート・ものづくり・食・歴史文化などをテーマに企画された24のプログラムを、市内外から参加した約230名のみなさんに満喫していただきました。そんなおだやかさが感じられるシーンをご紹介します。



雪降る山里でノルディックウォークと椎茸ランチ



パティシエの技を伝授されてフルーツタルト作り



土のぬくもりが残る自慢の器が完成



ロングトレイル新コースを踏破



味噌の知識を習得して仕込み。今春に開封

菅田春江さん 公民館表彰

武蔵西地区公民館主事の菅田春江さんが、長年の功績が認められ大分県公民館連合会から公民館勤続職員表彰を受賞しました。

菅田さんは公民館主事として、平成21年度から「協育ネットワーク推進事業」に取り組み、地域の活性化や地域教育力の向上に努めています。



▲重吉さん(中央左)の寄付で購入したテントや園児と一緒に(12月16日)

オレンジ保育所ではお礼の交流会

国東町小原の重吉公生さんから、100万円の寄付をいただきました。市では園児用プールやテント、トランポリンや扇風機などの備品を購入し、保育所や学校で活用しています。そのお礼にと、国東町のオレンジ保育所では、重吉さんを招いて交流会を開催。園児たちが踊りや手話を披露して感謝の気持ちを伝えました。重吉さんは「福祉や教育のために役立ててほしいと寄付しました。今日は子どもたちと会えて光栄です」と笑顔を見せました。

重吉公生さん市へ100万円

【問合せ先】観光課（国東市サイクリングターミナル内） ☎0978-72-5168